

児童質問紙の結果より

ご家庭においても、お子さんの頑張りを認め、これからご家庭でできることについてお子さんと話し合ってみてください。

加古川市の学力・学習状況（小学校）

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果より

令和5年10月18日
総務教育常任委員会資料
教育総務部学校教育課

生活のリズムを整える

「毎日、朝食を食べている」児童や「毎日同じ時刻に起きている」児童の方が、正答率が高い傾向がみられました。

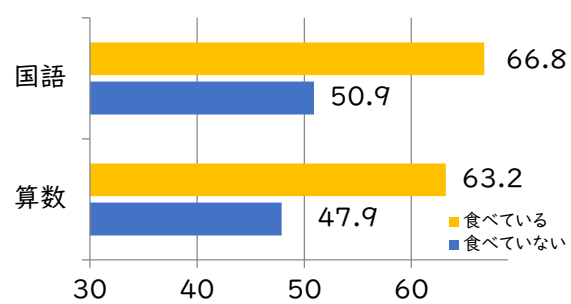
- ☆毎日朝食をとり、元気に一日のスタートを切ることが大切です。
- ☆家庭での時間を有意義に使うためにも、睡眠や食事などの時間を決めておくことが大切です。



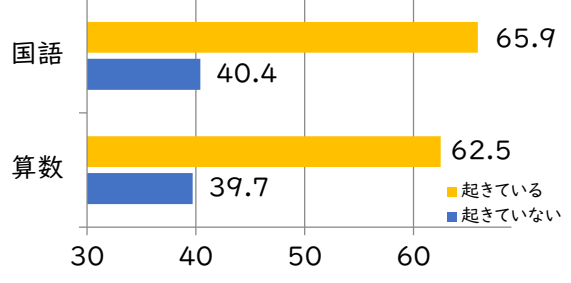
加古川市では、すべての市民が、良好な環境のもとで、いきいきと毎日を過ごすことを掲げています。小学5年生時に配付している「かこがわウェルネス手帳」も参考にしてみましょう。
※加古川市のグーグルアカウントで見ることができます。



朝食を「毎日食べている／全く食べていない」と答えた児童の正答率



毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた児童の正答率



家庭学習の習慣を身に付ける

「読書は好き」と答えた児童や「家で自分で計画を立てて勉強をよくしている」と答えた児童の方が、正答率が高い傾向がみられました。

- ☆図書館を利用したり、親子で同じ本を読んで感想を伝え合ったりすることが大切です。
- ☆「教科書の問題を解く」や「学校で学んだことについて家族で話をする」など、毎日少しずつでも家庭学習の習慣を身に付けることが大切です。

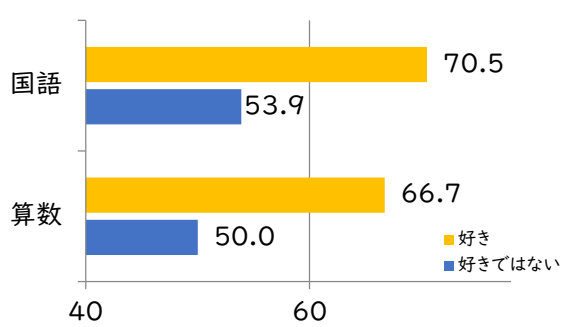


家庭学習の手引き

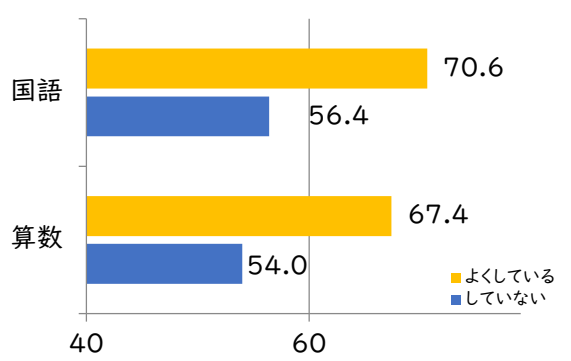
加古川市では、「家庭学習の手引き」に示しているように、4つの習慣づくりが大切と考えています。その中の学習習慣について、自宅でも積極的に読書ができるように、電子図書館に児童用電子書籍（読み放題）を導入しています。ぜひ家庭学習に活用してください。



読書は「好き／好きではない」と答えた児童の正答率



家で自分で計画を立てて勉強を「よくしている／していない」と答えた児童の正答率



保護者のみなさんとともに考える

令和5年4月、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査は、児童の学力・学習状況を分析し、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的としています。この調査結果から、加古川市の現状を分析し、結果をまとめました。

先生は
あなたのよいところを
認めてくれる
93.2%
(全国89.8%)

自分には、
よいところがある
88.0%
(全国83.5%)

学校に行くのは
楽しい
89.0%
(全国85.3%)

先生や学校にいる大人に
いつでも相談できる
73.5%
(全国68.5%)

地域の行事に
参加している
66.8%
(全国57.8%)

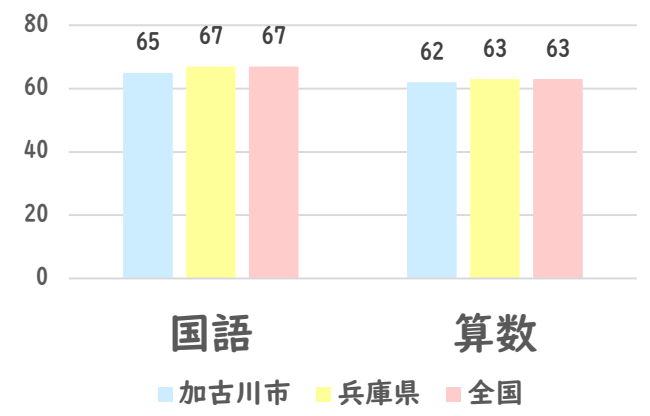
※児童質問紙で
肯定的に回答した
割合の高かった
設問より



教科に関する調査結果

- ・加古川市の結果を全国平均と比較すると同程度でした。
- ・記述式問題の無解答率は低く、正答率においても向上した問題が見られ、『協同的探究学習』の成果が表れてきています。

令和5年度平均正答率



加古川市教育委員会は「教育アクションプラン」を策定し、「未来を拓く学び推進事業」に取り組んでいます。

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000



←未来を拓く
学び推進事
業について



←全国学力・
学習状況調
査について
(概要)

結果は、学力・学習状況の一側面を示すものではあるものの、資料の一つとして活用し、授業改善を図りながら、子どもたちのこれからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたいと考えています。



社会の変化とともに、子どもたちに求められる学力／が変わってきています。



各教科の結果より

今年度、加古川市の子どもたちが苦手としている問題をまとめました。



国語

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけよう

【書くこと】… 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる課題

問題: 空白に学校の米作りの問題点とその解決方法について活動(右資料)を基に、川村さんの立場で、60字以上100字以内で書こう。

(○正答例)

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。(100字)

(△誤答例)

学校の米作りの問題点は、雑草に栄養をとられて米のしゅうかくが減ってしまうことでした。そこで、雑草取りの回数も人数も増やすことにしました。(68字)

誤答には、グラフから分かる学校の米作りの問題点を取り上げなかったものや、取り上げようとしたが適切に取り上げて書かれていないものが多く見られました。

正答率

加古川市	全国
25.0%	26.7%

無解答率

加古川市	全国
5.0%	7.1%

読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、その関係を考えるようにすることが大切です。また、図表やグラフの特徴と、算数や社会で学んだことをつなげて考えることも大切です。



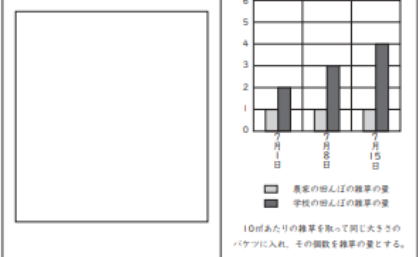
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにええを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、アいがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウまさんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

【カード④】

7月20日

【農家の石山さんのお話】

- ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日

【学校でできる解決方法】

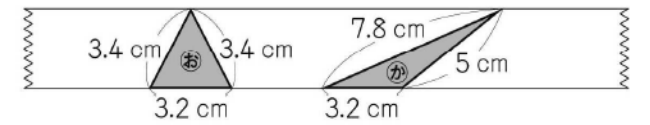
- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

算数

図形の構成の仕方を観察して図形について判断しよう

【変化と関係】… 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる課題

問題: テープを直線で切って、右のような①と②の2つの三角形をつくります。①と②の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。右の1から4までの中から1つ選んでその番号を書こう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って説明しよう。



- ①の面積のほうが大きい。
- ②の面積のほうが大きい。
- ①と②の面積は等しい。
- ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

(○正答例)…【3】

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。①と②の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。①と②の高さは、テープのはばがどちらも同じ長さなので等しいです。だから、①と②の面積は等しいです。

(△誤答例)

高さが書かれていないので、このままでは面積を比べることができないから。

誤答には、高さについて具体的な長さが示されていないことから、面積を比べることができないと判断しているものが多く見られました。



テープなどの日常にあるものに平行や垂直が含まれているかなど、算数で学んだ内容と日常生活をつなげて考えることも大切です。

これまでの取組の成果が見られる問題

※次のような問題において、Aの考え方だけでなく、Bの考え方で正答した児童の割合も多く、多様な考え方で、自ら解決する力が身につけてきています。

【変化と関係】… 伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる課題

問題: いす4きゃくの重さをはかると、7kgでした。このいす48きゃくの重さは何kgですか。求め方を式や言葉を使ってかきましょう。また答えもかきましょう。



(○正答例)

A いすの数は、 $48 \div 4 = 12$ で、12倍になります。いすの数が12倍になると重さも12倍になるので、48きゃくのときの重さは、 $7 \times 12 = 84$ で、84kgです。
B 1きゃくあたりの重さは、 $7 \div 4 = 1.75$ で、1.75kgになります。48きゃくのときの重さは、 $1.75 \times 48 = 84$ で、84kgです。



全国的な課題である、考えた理由を表現する力が身につきます
根拠を明確にして書く力がついてきています！



あきらめずに自分なりの方法で解く力が身につく、無解答率が低くなります
自分で考える力がついてきています！



自分と違う意見について考える学習で楽しさを感じることは、学力向上につながります
学級全体で考えを出し合うなかで、新たな気づきが生まれます！

「協同的探究学習」が育む子どもたちの「わかる学力」と「自己肯定感」

協同的探究学習とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人ひとりの子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。

これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「**わかる学力**」が重要になります。

協同的探究学習により一人ひとりの「わかる学力」や自己肯定感が育ちます。



加古川市学力向上推進委員会顧問
東京大学大学院
藤村 宣之 教授

友達や先生から自分の考えを認めてもらうことで、自分のよさに気づき、**自己肯定感**が高まります。

今回の調査では、自分には、よいところがあると感じている児童の割合は全国平均を大きく上回り、取組の成果が表れてきています。

「自分には、よいところがあると思う」と答えた児童の割合
※「ある」、「どちらかといえば、ある」と回答した割合のみ表記しています

